★医療法人　尚寿会グループ　広報紙　★第１３２号　R3．3．10　★法人理念　信頼と愛とで築く地域医療

# ひこばえ号 Shou尚

発行者;寳積英彦,　埼玉県狭山市水野 594 番地,　編集長;関口 歩　企画編集;広報紙編集室，
ホームページ；www.syojukai.or.jp　メール；syojukai@mirror.ocn.ne.jp
ホームページ　ブログ

## 2021 年度　法人職員行動指針

本年度は法人３か年計画における最後の年です。原則中期計画に準じますが、本年度は社会環境の大きな変化から学び、下記の視点を持って日々就業していきましょう。

今は、正しい矛盾の両立が必要です。
患者さんへの適切なケアと感染防御対策
医療の質と私たち医療従事者の生活の質
ボトムアップ指向とトップダウン指向
感染対策（Stay Home）と経済（Go to 事業）
これらは幾つかの根拠から導き出される理想と、眼前現実との併存の問題です。どちらか一方に偏り、何方かがゼロでは成り立ちません。

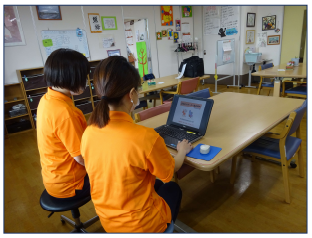
外来にて発熱者診療に携わる勇敢な看護部 Vol. 1

一見矛盾の様に思えるものを融合させることにより、将来への活路が見出せます。そのためには必要なことがあります。
今、自身の目の前にある現象・事実に対して、決して目を背けず直視をして下さい。そして一つ一つ丁寧かつ真摯に因果関係を突きつめて対応を考えて下さい。
私たちは同じ目的と併存し、個性を持った個人の集団です。目的は同じでも活躍方法が各々異なる場合があります。
更には、自身の行動で変化が起こせる事のみをきちんと選択して注力して下さい。自身の意向でコントロールできない要因に不安を持たないで下さい。
本年度は常にこの事だけを考えて就業して下さい。

今は実力を養いながら躍進の機会をじっと待つ。足元を見て歩みましょう。

医療法人尚寿会・社会福祉法人尚栄会　理事長　寳積英彦

## あさひ病院　認知症疾患医療センター活動　～オンラインで開催しています！～



地域での活動も役割である認知症疾患医療センターにとって、今年度はコロナ禍での対応に苦慮した 1 年でした。そんな中でも zoom などのオンラインでの活動も少しずつ増えてきています。移動と対面が当たり前になっていたちょっと前とは違う時代が到来してきました。災いもって福来るではありませんが、オンラインも利点があるかもしれません。
まだまだコロナに振り回される時間が続きますが、来年度はより工夫をしながら地域での活動を行っていきたいと思います。　（むー・クロ）

★ひだまり広場の紅梅・白梅が綺麗に咲きました。これからも桜・藤と四季折々楽しめます。ぜひ来てね★

## 更なる理念の具現化に向けて　～法人統括本部設置～

医療制度改革、超高齢化社会への適応、予期せぬ感染症の蔓延などの影響を受け、近年の医療介護経営は非常に難しい舵取りを求められています。尚寿会の法人理念「信頼と愛とで築く地域医療」並びに、尚栄会の法人理念「思いやりで支える地域福祉」を、今後も具現化し続けるためには環境に応じて自ら変化することができる組織へと成長しなければならないと感じています。

2021 年度よりまずは尚寿会にて組織図の大幅な変更を行い、全社業務を担う法人統括本部を設置します。豊富な経験と新たな知識を融合して尚寿会を新たなステージへと牽引することが、法人統括本部の役割だと考えています。そして、各事業所の事務長には将来有望な人財を登用しました。将来に亘って地域の皆様に正しい慢性期医療・介護・福祉を提供し、職員の皆さんや地域の取引先など、全てのステークホルダー（尚寿会関係者）の幸福度を高めることができるよう、法人統括本部と事業所（施設・在宅部門）が手を取り合って運営していきます。新たな事務長はその架け橋となります。

コロナ禍の今は、目の前の感染症対策、そして地域の皆様が安心して暮らせるよう、ワクチン接種の準備に追われていますが、この中でも新たな光を見出し、明るい未来に向けて職員一同邁進して参ります。今後ともご協力をお願い致します。

法人統括本部　養田純一

## 新たな広報のカタチに　～4 月より広報紙“尚”が生まれ変わります～

平成 10 年に創刊し、医療法人尚寿会の成長を皆様に発信してきました本紙“尚”が次号より生まれ変わります。尚寿会・尚栄会グループでは、“尚″の他にもホームページやブログでも、グループ内医療機関や施設の「今」を随時発信してきました。創刊から 23 年。デジタルの発展と共に広報紙のツールも大きく変容してきました。紙面とデジタルを併用してきた中で、そのバランスや広報そのものについて、編集室では検討を重ねました。

まず、令和３年度の開始と共に、“尚″の発行を春と秋の年２回に変更致します。デジタルコンテンツの更なる活用も進めて、尚寿会と尚栄会の情報発信を時代に即したカタチへと変えていきます。本紙はグループ広報の中核を担い、患者様や地域の皆様、そして職員へと幅広い方々に向けた紙面づくりをしてきましたが、次号より地域の皆様を対象に絞り、掲載内容も吟味した紙面になります。新しい編集長には、編集員（なみ）こと、老健愛臨床部門管理を担当する並木が就任いたします。

法人の組織編制に伴い、数名の創刊メンバーの卒業と新たなメンバーを迎い入れ、編集室ではこれからも愛される紙面づくりを続けて参ります。引き続きよろしくお願いいたします。　　事業企画実行部　内田成彦

## 医療従事者応援プロジェクト「You are my HERO」

日本財団では医療の最前線において、治療と感染予防に尽力している医療従事者を応援することを目的に、株式会社コーセーとの共同で医療従事者応援プロジェクト「You are my HERO」を実施されています。このプロジェクトは、匿名一般女性から、現場で日々対応されている医療従事者の皆様に、マスクによる肌荒れや目元のケア、リフレッシュなどに役立てて頂きたいという想いで、化粧品セットの寄付が KOSE 様の提供で行われます。

大生病院では、1 月 27 日に綺麗に包装されたたくさんの化粧品セットが看護部に贈られ、笑顔が溢れました。業務中はもちろん、日常的にもマスクを外すことが難しい毎日の中で、肌トラブルも増え、お化粧をする機会も減ってしまったという方、コロナ禍でお化粧どころでない大変な思いをされている方も多いと思います。

「You are my HERO」プロジェクトは、そんな with コロナ時代の私達ひとりひとりにエールを送ってくれているような気がします。日本財団様、株式会社コーセー様、この度はありがとうございました。なお、今回の受け取りの模様が TV 取材され、同日テレビ朝日のスーパーJ チャンネルで放送されました。　（エム）

## 想いを繋げたい　～コロナ禍の利用者様と家族を繋ぐ試み～

老健　愛　では、現在面会制限もある中で、少しでも利用者様のご様子をお伝えするために様々な取り組みを行っております。これまでの取り組みは、尚の中でも紹介した喫茶室を利用したガラス越しの面会、今秋冬号の 600 枚を超える写真の掲載、販売、更には愛独自の広報誌やブログでのレクや食事のご紹介などがあります。

今回、新たに愛の３階フロアで行った利用者様とご家族様とを繋ぐ活動をご紹介します。利用者様からご家族へのはがきに気持ちを込め、写真やデコレーション、ご本人の一筆を加えたものなど、ひとつひとつ手作りで利用者様とリハや介護職員が一緒になって作成し、投函致しました。中にははがきで返信を頂いた方や、メールで感謝のメッセージを頂くケースもありました。

そして、利用者様と家族様の繋がった瞬間に喜ばれる利用者様を目の当たりにし、こちらも実施して良かったと改めて感じました。巷では一部でワクチンの先行接種が始まり、少しずつ希望も見えてきています。その希望に向け、利用者様に寄り添いながらこの難局を乗り越えていきたいと思います。（なみ）

## 大生病院　病棟レク活動　～コロナ禍でも楽しみを！～

2 月としてはおよそ 140 年で 5 回しか経験のない 2 日連続気温 20 度超えを記録したという日の午後、レクリエーションの時間。大生病院の患者様方がＡ棟南側にある“いこいの院庭（にわ）”で日向ぼっこをしました。付き添ったリハビリスタッフによると、外に出るのは約 1 年ぶりの患者様もいらっしゃり、お顔や体に陽の光を浴びながら、すぐそこまで近づいている春の気配も感じながら穏やかな時間を過ごされました。

コロナ禍で様々なことが制約されて早 1 年。それでも患者様には楽しんで頂きたい！と、気候の良い日は屋外で散策したり、院内では書道や手遊び、手話を用いての声を控えた歌を歌ったり、季節感を盛り込みながら活動をしています。

3 月のひな祭りには「フィーリングカップル５対５」を開催！男性女性問わず気の合うお仲間探しの後は、おやつをご一緒に召し上がって頂き、うれしはずかしのひとときを皆さんで楽しまれました。（ちか）

## 免許証返納後も諦めない！　～愛　通所の車からの移動手段変更の取り組み～

家族から車の免許証の返納を勧められている、だけど移動手段がなくなるのは困るとお悩みの方、周りにおられませんか？今回、意を決し免許証を返納し、新たな移動手段取得を目標に掲げ、愛の通所リハビリにて前向きに努力し、目標を達成されたＳ様の取り組みをご紹介します。

Ｓ様の目標は「自転車で通院したい！」車の免許証を返納されたのを機に３輪型自転車を購入されました。３輪型自転車は見た目には安定しているように見えますが、実際に運転するとハンドルが取られやすく蛇行しがち。下肢や体幹の安定性が求められます。また通院時利用の道路は車通りの多い場所や交差点など様々な障害がありました。今回は自宅から大生水野クリニックまでを自転車で通う！と強い意志の下、リハビリスタッフとも相談し、なんと 30 分もかけ、無事に大生水野クリニックまで到着することができました！

その際わざわざ愛の通所に顔を出して挨拶をしてくれました。その時のＳ様の輝いた誇らしげな笑顔は本当に素敵でした。是非これからも安全には注意して頂きながら、様々な活動に積極的に参加して頂きたいと思います。

通所リハビリ「愛」では、今後も一人でも多くの方が幸せを見出して頂ける様、お手伝いをしていきます。このような報告がたくさんできるよう、スタッフ一同頑張ります。（なみ）

**★ありがとうございます。永年勤続表彰者 91 名　多くの職員に長きに亘り支えられております★**

## 蜃　気　楼　～我が家の大黒柱～

これがわが家の大黒柱です。黒柴という種類の犬でかなりやんちゃ者です。今ではおじさん（私よりちょっと年上？）なので、人間と同じく大分柔らかいキャラになってきました。散歩中はかわいい人間の女性やわんこがいれば（男の子なので）寄り添っていく、怪しい人には思い切り吠える。なぜかお年寄りのわんこには優しく寄り添っていきます。もちろん家では彼のいる場所が一番気温も環境も良い場所になっています。（皆それに従います）動物の本能ってすごいですね。コロナ禍でこんな世の中なので、最近はなかなか会えないのが今の私の悩みです。

私も自分の本能のまま、きまぐれに北海道で 9 年間程過ごしたことがあります。富良野市、別海町、登別市、木古内町、小樽市など、北海道中、車や飛行機で当直・旅行と飛び回っていました。若かったですね（笑…）。もちろんいろんな動物にも巡りあいながら。

特に赤平市という富良野のそばにある町では、3 年ほど地域医療の究極を味わってきました。田舎町での医療の厳しさ、楽しさのどちらも学びました。あさひ病院でもこれらの経験を活かして皆様に貢献できればいいな、と思っています。どうぞよろしくお願いします。　　あさひ病院 4 階西病棟担当　寺野章代

## 尚寿会グループとしてできること　～東日本大震災から 10 年～

2011 年 3 月 11 日、あの日から 10 年が経ちます。外来待合室のモニターで見た町が津波に流される映像の衝撃は、10 年後の今も忘れることができません。当時、私達にも何かできる事があるかもしれないと思い、仲間と共に被災地へ車を走らせました。海岸沿いの捜索活動、高齢者住宅の片づけ、側溝の復旧などに従事しましたが、壊滅的な風景の中で人間の無力さを思い知らされるばかりでした。

私たち個人では小さな力かもしれないけれど、法人としてならもっとできる事があるかもしれないと理事長に相談し、始めたのが「復興支援市」です。東北地方のつくねや缶詰などを職員の皆さんに協力を頂き、共同購入しています。その時に募った義援金と窓口に設置した義援金をボランティア活動時に直接届けたりもしました。

10 年経った今年も、「復興支援市」を開催します。遠く離れた私達にできることは限られますが、10 年間もこの活動を続けることができているのは、賛同してくれる職員皆さんのおかげです。「復興支援市」を開催することで、被災地に想いを寄せ続ける活動を継続していきます。これからもよろしくお願いいたします。　　（熊☆）

### 地域交流推進委員会年度末活動報告

今年度の活動は残念ながらすべて自粛いたしました。

想いを、志を、地域の皆さんにお届けすることができませんでしたので、次年度も委員長職を担わせて頂く事になりました。次年度はコロナ感染が終息し、何かしら地域の皆さんと関わりを持つ事ができる事を願っています。

小さなことから少しずつ…どうぞよろしくお願いします。　　地域交流推進委員会委員長　吉田佳祐

### 親睦会年度末活動報告

今年度の親睦会は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動が大きく制限されてしまいました。例年では納涼祭を筆頭に多くのイベントが企画されている中、今回は“お楽しみ抽選会”のみでした。

抽選会で職場内でのコミュニケーションのきっかけになり、少しでも楽しんで頂けたのであれば幸いです。

来年度はウイルスが終息し、楽しいイベントができる事を願っています。第 42 期親睦会会長　木下弘章

☆葉号☆ひこばえ号　ひこばえとは、春、樹木の切り株や根本から萌え出る若芽の事を言い、ひこ（孫・曾孫）が生まれる「ひこ生え」に由来し、世代の継承、子孫繁栄…転じて繋がるという意味でもあると思います。福寿の里のひこばえホールは、福寿の里と地域の皆様との繋がりと繁栄を願って名付けました。

この広報紙「尚」は、平成 10 年の創刊以来 23 年 132 号の今号を以って私の編集長としての役目を終え、次代にバトンを託すこととなりました。長きに亘りご愛読ありがとうございました。形は変わっても、広報紙「尚」がずっと繋がっていく事を願っています。　　編集長　関口　歩